

ソウゾウしよう、未来。

Arch

岩手県立大学・広報誌[アーチ]

2023.03

84

Spring

新たな学びのトビラを開こう！



New Generation Action!

KENDAI NAVI

特集 未来ソウゾウ

ソウゾウCAMPUS

ソウゾウ LABO

KENDAI NEWS



岩手県立大学
Iwate Prefectural University

ソウゾウの
ソノサキ。

Graduation Message 03

盛岡市立上田中学校 養護教諭

住吉 可帆 さん

2020年3月 岩手県立大学看護学部卒業



養護教諭の仕事の中には、外部の医師や薬剤師などと連携して行う活動も多く、日頃から関係づくりを意識しておくことが「保健活動を円滑に進めるポイント」という住吉さん。生徒への対応も、担任や各学年の教員や、保護者と協力して取り組んでいます。

大学で学んだ知識とスキルを活かし
生徒が立ち寄りやすい「開かれた保健室」に

私の母は養護教諭で、今でも現役で働いています。小さい頃から母の姿を見ていたせいか、自然と私も子供たちの成長に関わる仕事をしたという思いが強くなり、養護教諭を目指すようになりました。看護の知識や技術を身に付けたいと思っていたので、看護師と養護教諭の両方の免許を取得できる岩手県立大学へ。大学時代はアメリカ研修にも参加し、現地のスクールナースの仕事を見学。専門で分かれるアメリカと違い、心と体の両面をケアし、サポートしていくことのできる日本の養護教諭の魅力改めて認識するいい機会になりました。

養護教諭の仕事には、救急処置、健康診断、疾病予防などの保健管理、保健教育など様々ありますが、特に大切にしているのが健康相談活動です。保健室には毎日、生徒たちがそれぞれ異なる理由で来室します。体の不調を訴えて保健室に来室した生徒が、実は悩みや不安を内に秘めているという場合も多くあり、その内容も一人ひとり違います。

そのような時に心がけているのは、生徒に寄り添い、気持ちを受け止めつつ、共に考えること。かといって想いを受け止めるばかりではなく、時には背中を押してあげることもとても重要です。養護教諭は、担任の教員とも違う特別な存在。これからも生徒が何かあった時に気兼ねなく立ち寄れる「開かれた保健室」を目指していきたいと考えています。



岩手県立大学
Iwate Prefectural University

看護学部 | 社会福祉学部 | ソフトウェア情報学部 | 総合政策学部 | 盛岡短期大学部 | 宮古短期大学部 |
看護学研究科 | 社会福祉学研究科 | ソフトウェア情報学研究科 | 総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52 [URL] <https://www.iwate-pu.ac.jp> [e-mail] management@ml.iwate-pu.ac.jp
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001



Copyright © 2023 Iwate Prefectural University. ALL RIGHT RESERVED. 発行:2023年3月31日

New Generation Action!

スポーツやボランティア、同好会など、課外活動はもう一つの学びの場。
いろいろなことに全力で取り組む県大生たちの活動を紹介します。



DATA

千田 小百合さん

滝沢市出身。岩手県立大学ソフトウェア情報学
研究科前期課程1年。2022年7月に「ラーニン
グイノベーショングランプリ2022」で、「大学数
学における学習意欲検査と学習データを用いた内省を促す相対比較フィードバック」の研究
発表で奨励賞を受賞。同年11月には、論文が国
際会議「2023 11th International Confer-
ence on Information and Education
Technology(ICIET2023)」で採択され、発表
を行った。



「小学生プログラミングコンテスト岩手県大会(主催:岩手日報
社・岩手大学)」の審査員を務めた経験もある千田さん。子ども
たちの自由な発想に刺激を受けることも多いのだそう。



プログラミングを通して
表現する楽しさを伝えたい。

新たな学習・教育方法や革新的な
ラーニングテクノロジーなどを発掘す
る、「ラーニングイノベーションラン
プリ2022」。全国の若手研究者が成
果を競い合うこの大会で、千田さんは
奨励賞を受賞しました。発表したのは、
機械学習の手法を使い、数学の成績向
上を目指す学習プログラム。他者の主
観と客観データから成績低下の対応策
を分析し、学生にフィードバックして内
省を促す学習方法を開発しました。
千田さんが初めてプログラミングに
触れたのは、中学生の時。夏休みに本学
が主催するプログラミング講座を受講
し、「自分の考えを表現できる楽しさ」
に夢中になったと言います。早速、部活
仲間とゲームを作り、「中高生国際
Rubyプログラミングコンテスト」
に応募したところ、最優秀賞を受賞。高
校で出会った先生に憧れ、教師を目指
すために岩手県立大学に進学した後
も、南野謙一講師のもとで研究に取り
組みながら、小中学生向けのワー
クショップの講師なども務めています。
「まだまだ知りたいことがたくさんあ
る」と、常に学びを広げ、知ることの楽し
さを探求する千田さん。令和6年度には
高校教員となって、教壇に立つ予定です。

私たちは、学生の広報部隊として活動する CA(キャンパスアテンダント)。
楽しいキャンパスライフや大学生活の魅力 力をいろいろご紹介!

KENDAI NAVI

手話サークル ひだまり

手話の本を読み、実際に学んでみたいと思
い「手話サークルひだまり」に入りました。手
話を理解して会話できるようになること、手
話歌*で歌に合わせて手話ができるようにな
ったことがやがいです!

*音楽に合わせて歌詞を手話で表現する歌のこと。



きっかけ、
やりがいは...

CA アテンダント



きっかけ、
やりがいは...

高校生の頃に参加したCAカフェ*で、先輩
CAに支えてもらって憧れを抱き、私も絶対
CAになりたい!と思い、活動を始めました。
夢を叶えるために日々努力する高校生を間
近で応援できるのがやがいです!

*CAに大学生活や入試について相談できるイベント

詳しい活動はSNS(Instagram,
Twitter,Tik Tok)をチェック!

社会福祉学部生以外の
参加も大歓迎!!



テーマ

県大生の課外活動

課外活動は、多くの人との出会いを広げ、自分を成長させてくれる場。
いろいろなサークルで生き生きと活動する学生たちを紹介しましょう。

スポーツ クライミング



以前から高いと
ころが好きで、先
輩方が登っている
姿を見て憧れを
抱き、入りました。
傾斜のある壁が
難しいので、そ
こを超えて一番
上まで行けた時
がとても嬉しい
です!

きっかけ、
やりがいは...

みんなもクライミングウォールに
登ってみよう!

劇団 ちやねる



きっかけ、
やりがいは...

高校生の頃に
演劇を見て興味
を持ち、新しい
ことに挑戦した
いと思入りました。
演劇後に
観劇していただ
いた方から良い
感想をもらえた
時にやりがい
を感じます!



演者以外にも照明係や、
小・大道具係も募集中!



「なりたい自分」の実現に向け、学生一人ひとりの就職をサポート！

早い時期から将来を見据え、主体的に考え、行動する力を

入学したばかりの学生の多くは、「就職活動なんてまだまだ先の話」と思っているかもしれませんが、実はそうでもありません。入学時にどのような将来を目指すかで、取るべき科目もその後の大学生活の過ごし方も大きく変わってきます。

岩手県立大学のキャリア教育では、働く意味を考える全学共通の科目での学びをはじめ、各学部の専門科目を体系的に組み込んでいるほか、就職に向けた活動全般の支援をキャリアセンターが担っています。

「就職支援のスタンスは、学生一人ひとりの希望に沿った進路を実現するために、それぞれに合ったサポートを行うこと。学生自身が主体的に考え、選び、自分なりの答えを出していただけるよう、

手助けをすることが私たちの役割です」と話すのは、キャリアセンターの西野泉さん。低学年から参加できる就職ガイダンスなどを開催し、将来を考えるキッカケづくりを行っているほか、学年に応じて必要な就活イベントを実施しています。

センター内には、キャリアコンサルタントという専門の資格を持つ職員が3名常駐。就職活動の進め方だけでなく、自分の考えをどのように整理すればいいのか、将来のキャリアをどのように考えていけばよいのかなど、一人では解決しにくい相談や悩みにも丁寧に対応してくれます。また、キャリアセンターでは学部の就職担当の教員とも連携し、日頃から情報交換をしながら学生の就活をフォロー。両者のきめ細かなサポートによって、学生が希望する将来の夢をかなえられるよう寄り添っています。

就職支援専門員(キャリアコンサルタント)をはじめとするキャリアセンターの職員が、就職活動に関するあらゆる悩みや相談に随時対応。エントリーシートの作成支援なども受けられます。

【キャリアセンターの活用】

■情報収集

先輩たちの就職活動報告書、就職関連の雑誌・書籍、インターンシップ報告書などの閲覧ができます。また、公務員試験対策のテキストなどの貸し出しも行っています。

◎就職ポータルサイト
キャリアセンターが運営する就職支援サイト。本学学生向けの求人情報の検索やガイダンスなどの就活イベントの確認・申し込みなどができます。



■個別相談

就職支援専門員(キャリアコンサルタント)をはじめとするキャリアセンターの職員が、就職活動に関するあらゆる悩みや相談に随時対応。エントリーシートの作成支援なども受けられます。

■就活支援

個人面接・集団面接・プレゼン面接といった本番さながらの模擬面接や公務員試験対策講座の実施、就職ガイダンスや合同企業等説明会の開催などを通じて、学生一人ひとりの就職活動をサポートしています。

就職サポートスケジュール

1年次	2年次	3年次	4年次
「COMPASS」配付			
業界研究セミナー			
インターンシップ等参加(夏季休業・春季休業期間中心)			
キャリア教育科目「人間と職業」、「キャリア地域学習」			
		キャリアガイドブック配付	
		就職ガイダンス	
		合同(個別)企業等説明会	
		模擬面接	
個別相談			
	公務員試験対策講座		
	SPI模擬試験実施		
公務員模擬試験実施			

「なりたい自分」の実現に向け、学生一人ひとりの就職をサポート！

コロナ禍によってオンライン面接が常態化したり、インターンシップのあり方が変わるなど、様々な変化がもたらされた近年の大学生の就職戦線。しかし、どんなに環境が変わっても、学生たちが描く将来の夢を全力でサポートするのが、キャリアセンターです。すべての学生たちが、「なりたい自分」を実現できるように、様々な支援活動を行っています。





「なりたい自分」の実現に向け、学生一人ひとりの就職をサポート！

「なりたい自分」の実現に向け、学生一人ひとりの就職をサポート！

社会に出る前に働く意義を学び、学生の成長を促す貴重な体験を

職業選択や就活の予行練習として多くの学生が参加する、「インターンシップ(※)」。これは、就業体験を通じて、仕事や企業、業界、社会への理解を深めることができるプログラムのこと。数日間のものから1カ月以上にわたる長期のものまで実施期間は様々ですが、社会に出る前にビジネスの現場を体験できる機会として、参加する学生が年々増えています。

学生にとっては、社会人としての基礎を学んだり、仕事や業種・業界への理解を深めたり、年代や立場の異なる人々との関わりから学ぶ意欲を喚起されるなど、様々なメリットがあります。一方、企業にとっても、学生の生の声を採用戦略に活かしたり、会社の組織や業務内容を見直す機会になったり、社内の活性化につながるなど、メリットがいろいろあります。

岩手県立大学では、岩手大学・盛岡大学と連携し、企業と学生をインターンシップでマッチングするサイト「インターンシップ in 東北」の幹事校を務めるなど、率先して学生たちのインターンシップを奨励。受け入れ先の事業所は県内を中心に100以上あり、夏季ま

公務員の仕事の理解を深め、筆記から面接まで手厚くサポート

企業や団体と学生をマッチングするインターンシップと同様に、本学では公務員志望の学生たちのサポートにも力を入れていきます。安定性はもちろん、地域の人々の暮らしを支える仕事として人気を集める公務員ですが、国家総合職から地方公務員まで幅広い職種があり、試験内容も様々。特に公務員試験の場合は、早い時期から専門試験の出題分野を意識した授業の履修や、試験対策を行うっていく必要があります。

キャリアセンターでは独自企画として、主に1・2年次を対象にした「公務員進路ガイダンス」を実施。本学OB・OGの公務員による情報提供や座談会などを実施し、公務員の仕事や職種について理解を深める機会を設けています。このほかに、2年次(盛岡短期大

※令和5年度から大学生等のインターンシップの取扱いが変わります。詳細は文部科学省ウェブサイトをご覧ください。また、産学協議会ウェブサイト掲載の2021年度報告書も併せてご参照ください。

たは春季休業を利用して約5日間以上(コロナ禍では3日間以上)のインターンシップを実施しています。

「参加した学生たちには、インターンシップで学んだことをまとめた報告書を提出してもらっています。客観的に体験を振り返ることで、自己分析を深め、これから学ぶべきことなどを再確認してもらうことが狙いです」と、キャリアセンターの高橋郁磨さん。これらの報告書は閲覧コーナーで読むことができ、先輩たちの体験を参考にする学生が多いとか。様々な職種・業界を体験し、働く意義を学ぶことで、学生たちは視野を広げ、「なりたい自分」を明確にしています。



「インターンシップ in 東北」は、企業と学生が出会う場。大学と企業が協定を結び、5日間~10日間程度の職業体験ができるインターンシップです。大学が仲介し、フォローを行っているので「安心して参加できる」と好評です。

総合政策学部

【地域公共人材研究センター】

総合政策学部では、公務員希望者向けに「地域公共人材研究センター」を設置しています。センターでは、セミナーやガイダンスの開催、公務員試験関連図書の出貸、公務員模擬試験などを実施しているほか、勉強会などを通して学生同士が切磋琢磨できる場をつくり、全体を通して密度の濃い指導を行っています。また、公務員合格者を囲む会や現役公務員である卒業生との懇談会などもあり、先輩から貴重な話を聞くことができる機会も設けています。

岩手県立大学生協

【公務員試験対策相談コーナー】

就職先の選択肢のひとつとして公務員を考えている学生に対し、広く相談対応をしています。相談内容は、公務員の種類・職種・職務内容・仕事のやりがいのほか、試験科目や難易度、面接試験の形式などなんでも結構です。相談は、メディアセンターA棟3F・風のモント内の大学生協カウンターで受け付けています。※民間企業との併願等に関する相談はキャリアセンターへ



学部は1年次)から受講できる「公務員試験対策講座」(大学生協運営・有料や公務員模擬試験、SPI模擬試験なども実施しており、学生のタイミングに合わせて受講することができます。また、面接指導にも力を入れており、個別の模擬面接をはじめ、集団面接(グループディスカッション)の対策講座など、本番さながらの面接練習を実施しています。

出題範囲が広く、合格するためには膨大な学習時間を要する難関の公務員試験。多くの学生が希望をかなえられないよう、早い段階から学習に取り組みることができる体制を整えています。

from Student

早めに試験対策の計画を立て、キャリアセンターを有効に活用しよう



遠藤 春花さん [総合政策学部4年]

様々な課題に直面し、困っている人々を支援する仕事に就きたいと思い、公務員を志望。受ける自治体によって試験内容が異なるので、まず早めに準備を始めたいと思い、2年生の時にオンライン配信で公務員対策講座を受講しました。最終的に志望先を絞ったのは、3年生後期の時。キャリアセンターに相談して、エントリーシートの書き方から指導してもらったことが役に立ちました。また、模擬面接でも、面接での話し言葉や基本的な姿勢、受け答えについても細やかにアドバイスをもらったので、冷静に本番に臨むことができたと思います。公務員を志望するなら、早め早めに動くことが大切。志望自治体の試験体制を把握し、余裕を持って講座の受講や面接練習などの計画を立て、頼れる機関を活用していくと良いのではないのでしょうか。

from Student

多くの社員に「働く意義」をヒアリング、物事に対する視点や考え方が変わりました



石津 央貴さん [ソフトウェア情報学部2年]

具体的な仕事を考える前に、働く意義について理解したいと思い、2年生の夏休みにインターンシップに参加しました。私はソフトウェア情報学部で学んでいるのですが、将来働くであろうIT企業とは全く違う業界の人たちの考え方を知りたくて、奥州市にある(株)キンレイという製造業の会社へ。2週間の体験だったのですが、全部署の仕事を理解すると同時に、40人ほどの社員の方々に「働く意義」についてのお話を聞かせていただきました。たくさんの人たちの考え方に触れたことで、参加する前よりも色々な視点を持てるようになったことが、一番の収穫です。一つの見方に固執するのではなく、別の角度から見方を変えることで新たな発見があったり、違う局面を開くことができる。人への向き合い方や生き方が楽になった気がします。

【主なインターンシップ実績企業(県内)】

- 令和4年度/(福)岩手県社会福祉事業団、山人・yamado、(株)イーアールアイ、(株)びーぶる、(株)菅文、盛岡市、(公財)岩手県予防医学協会、認定こども園都南幼稚園、リコージャパン(株)、インターンシップin二戸、(株)キンレイ、(株)清水建設、岩泉ホールディングス(株)、(株)二戸食品
- 令和3年度/(株)プレステージ・インターナショナル岩手BPO一関プランチ、(株)ワイズマン、(株)東北システムズ・サポート、(株)小友木材店、(株)リードコナン、(有)アイトカ、(福)悠和会 銀河の里、滝沢市役所、岩泉型インターンシップ、葛巻型インターンシップ



ソウゾウ_Campus06



多様な国籍の人々との交流を通じ、
広い視野と行動力を磨いていく

【上】「水ボラ」に同行したハイミッシュ・スミス講師と横田佳菜さん。
【下】陸前高田市で行われた「水ボラ」の様子。学生や職員など50名以上が参加した。



震災直後から続いている「水ボラ」は、被災者に水を届ける活動です。2013年から年に1回、他大学の学生を迎えて合宿形式で実施しています。

昨年の9月にも陸前高田市に出向き、本庄国際奨学財団の外国人奨学生、米國オハイオ大学の学生とともに活動を行いました。

この活動に参加した学生の一人が、盛岡短期大学の横田佳菜さん(国際文化学科1年)。英語力を磨くため本学に進学した横田さんは、国際交流も兼ねてボランティアに参加。オハイオ大学の学生をはじめ、様々な国々の学生たちと友好を深めました。

「岩手では多種多様な人種や異文化に出会う機会が少ないので、交流できる場はとても貴重。一緒に活動する中で、彼らが被災地を理解しようとする姿勢に触れ、色々な考え方や見方を知ることができたのは良い経験でした」と振り返ります。

英語の他にスペイン語を履修したり、オハイオ大学でのアメリカ研修にも参加し、積極的に学びを広げている横田さん。異文化の人々との交流や海外経験を積み重ねながら、世界で活躍するリーダー・コンダクターを目指しています。

ソウゾウ_Campus05



学生ならではの
発想を生かし、
駅を盛り上げる
仕組みづくりを



一戸駅と周辺エリアを調査する三好ゼミの学生たち。

モノやサービスを販売する際に、ターゲットに向けて「売れる仕組み」をつくることを「マーケティング」といいます。それは民間企業だけでなく、行政など公益性の高い組織においても展開することができます。

このマーケティング論を軸に、IGRいわて銀河鉄道(以下IGR)・青山駅の活性化に取り組んでいるのが、総合政策学部の三好純矢准教授のゼミ生たち。通勤・通学客以外の利用客を増やし、駅周辺エリアを盛り上げていくため、青山駅周辺にある商店街の調査やヒアリングを行い、全国の鉄道会社で行っている成功事例をリサーチしています。

「考えていた以上に資源が多く、駅と結びつけることで面白いことができるんじゃないかと思います」と話すのは、ゼミ生の角田帆乃香さん(総合政策学部3年)。モノやサービスだけで人を呼ぶのではなく、人と人とのやり取りが重要と考える角田さんは「特に大事にしたいのがプロセス。地域の人と一緒に盛り上げていく仕組みをつくるのが真の活性化につながるのではないだろうか」と強調します。

IGRの沿線にある一戸駅とその周辺の調査も行い、企画を練っていくのはこれから。どんなアイデアが生まれるのか、学生たちの発想に期待が膨らみます。

外国人に対する心の壁をなくし、 対等に向き合える関係づくりを

岩手県立大学は「国連アカデミック・インパクト(※)」に加盟して、グローバルな視点から地域課題に向き合う取り組みを進めています。その一つとして掲げているのが、「異文化間の対話や相互理解の促進」。外国人の人材登用が進み、日常的に外国人との関わりが増えていく中で、我々はどう向き合っていけば良いのか。岩手県内の自治体と協力し、地域が抱える問題を調査・研究している教授たちの活動をご紹介します。



※国連アカデミック・インパクト(UNAI)とは?



国連アカデミック・インパクトは、各大学が社会貢献をしながら、国連と世界各国の教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムで、国内でも85機関が加盟(2022年1月現在)。岩手県立大学では、UNAIに関連する様々な取り組みが行われていることから、2019年5月に加盟しました。

本学では[原則6:国際市民としての意識向上][原則8:貧困問題への取組][原則9:持続可能性(SDGs)の推進][原則10:異文化間の対話や相互理解の促進]、以上の4つの原則に取り組んでおり、異文化理解のためのイベントやワークショップ、海外留学を活用した社会課題を解決する学習プログラム、海外の大学とのSDGsの課題に関する活動を実施。グローバル社会における各地域や国、世界における大学の社会的役割を追求していきたいと考えています。

本学の2021年度の国連アカデミック・インパクト活動報告書はこちら⇒



「言葉や文化は違っても、最終的には人と人の付き合い。身振り手振りでもいいから、伝えよう、理解しようとする気持ちが大事です」と話す、細越久美子教授。



ない壁のようなものが存在します。語学のスキルも大切ですが、外国人と積極的に関わろうとするマインドや態度を身につけることがもっと重要です。これから外国人が増えていく中で、こうしたマインドを持った学生たちが、医療・保健、福祉、行政、企業などの現場で活躍してほしいと願っています」と、細越教授。互いの違いを認め合い、対等な関係を築いていくことで、誰もが幸せに暮らすことができる地域をつくっていく。そのためには、まず心の壁を取り払うことから始めていかなければならないのではないのでしょうか。

また、細越教授は、共通教育科目で「異文化間接触と多文化共生」という授業を通し、研究成果を学生たちに共有したり、留学生と日本人学生との交流イベントの開催や、外国人住民や支援に携わる人たちとの交流も行うなど、外国人と頻繁に関わり、理解を深めることができる場を設けています。

「日本に住む外国人と受け入れ側である日本人の間には、見え」

岩手県内には、7203人(2021年12月現在)の在住外国人が暮らしています。その出身国は60カ国以上にのぼり、永住者、日本人の配偶者、技能実習生、留学生など、立場も様々。県土が広いので各地域に散在して暮らしており、言語や文化、慣習の違いなどから孤立する場面も多く、様々な問題が生じています。

地域で暮らす外国人が抱える問題を調査し、「多文化共生の地域づくり」を考察する



ソウゾウ LABO #06

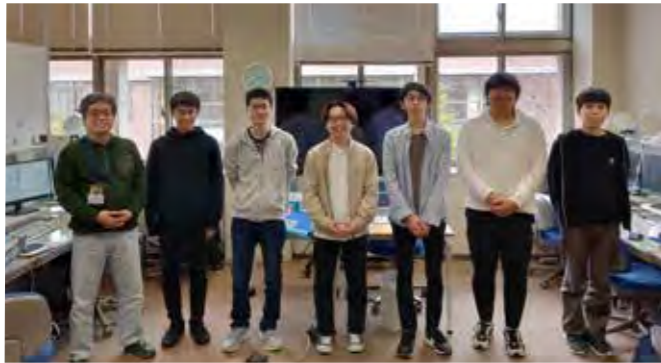


Cast
ソフトウェア情報学部 **田村 篤史** 准教授

Theme AI技術による進路指導変革を目指した
情報系学部の進路選択支援システムの開発

Profile
愛媛県生まれ、長崎県対馬育ち。福岡県内の高校を卒業後、東京理科大学理工学部数学科に進学。同大学大学院理工学研究科数学専攻(修士)、同科学教育研究科科学教育専攻(博士)修了。私立栄光学園中学校・高等学校教諭を経て、2020年岩手県立大学に着任。

知識や能力を、誰かのために。それが自分にも還ってくる。



田村先生と研究室のゼミ生たち



2022年に、同じソフトウェア学部の児玉研究室とともに盛岡白百合中学校・高等学校との「教育×高大連携」の協定を締結。双方の進路意識や学習意欲の高揚を図ることを目的としています。

数学(幾何学)と数学教育を専門とし、中高一貫の進学校で教諭を務めた経歴を持つ田村篤史先生。2022年度からソフトウェア情報学部の新設された、学部及び数学教職課程の必修科目「集合と位相」などを担当しています。

「位相とは、集合に加えた何らかの数学的構造のこと。位相空間にもっと強い条件を与えた距離空間というものがあります。距離にも様々なものがありますが、例えば、地面に長くまっすぐな線を取ったとします。でもその線をはるか上空から見ると、地球の丸みに沿ってカーブしているはず。そう考えると、距離を求める三平方の定理も球面の上では当てはまりません。球面上では平行線も存在しませんし、相似な三角形も存在しません(合同除く)。しかし非常に豊富な数学的内容をもつていて、研究室の学生

がその発見に臨んでいます。」
こうした数学的思考や知識をデータサイエンスにも活用し、学習支援や教材開発に取り組み田村研究室。そのひとつが、進路選択に悩む学生を支援するシステムの開発です。

「進路に悩み休学・退学してしまう県大生を減らしたい、というのがこの研究の原点。400を超える全国の情報系学部から教育方針などのデータを集めて『求められる学生像』を分析。それらのデータに意思決定理論やチャットボット(自動会話プログラム)などを活用し、学生一人ひとりの適正や指向を踏まえた進路選択を支援できればと考えています。」

そんな田村先生が、研究や指導をする上で大切にしているのが「自分が持っている知識や能力を他者に還元する」ということ。「人の役に立つ喜びは活力になり、時に自分の能力以上の力を引き出してくれる。私も、研究室の学生に日々刺激をもらっています。みんな大人しいけれど、素晴らしい発想力を持っている。彼らの可能性にワクワクしています」と笑顔を見せました。



⇐ソフトウェア情報学部のホームページ

ソウゾウ LABO #05



Cast
盛岡短期大学部 生活科学科 **大澤 朋子** 教授

Theme 屋外使用木材の耐用年数評価のための温度・水分暴露量と腐朽の関係式の構築

Profile
東京都出身。東京農工大学農学部卒、東京大学大学院農学生命科学研究科(修士)修了。建材メーカー、設計事務所を経て、住宅の性能評価等を行う機関に勤めながら東京大学大学院農学系研究科博士課程を修了。2019年秋田県立大学木材高度加工研究所、2021年から現職。

建築材料としての木の可能性を探りたい・拡げたい

大澤先生が研究に取り組み建築材料としての木材の耐久性に関して最近とりまとめた研究論文と博士論文。



授業の様子

「修士課程を修了し建材メーカー」
大学時代、のちに恩師となる東京大学教授の集中講義を受け「木は、伐採しても植えることで循環できる唯一の資源」という言葉に感銘を受けたのが原点、と話す大澤先生。とはいえ、研究の道をまっすぐ歩んできたというわけではありません。

「この研究の目的です。」
大学時代、のちに恩師となる東京大学教授の集中講義を受け「木は、伐採しても植えることで循環できる唯一の資源」という言葉に感銘を受けたのが原点、と話す大澤先生。とはいえ、研究の道をまっすぐ歩んできたというわけではありません。

一級建築士の肩書も持ち、二級建築士の受験資格取得に必要な科目を多く受け持つ大澤先生。専門は木質科学で、「木材の耐久性」をテーマに研究に取り組んでいます。

「建築材料としての木材は温かみがあり周囲の自然と調和するという長所がある一方、割れが起きやすく、そこに水が入ると腐朽しやすい。そこで、さまざまな状況下での木材内部の含水状態を測定して可視化し、耐久性の評価や設計技術に役立てたいというのが、この研究の目的です。」

「スギが多い秋田に比べ、岩手の山は樹種が多様。アカマツなど岩手の樹木に着目した研究もしてみたい」と大澤先生。国産木材の利用価値を高めたいという想いがあるからこそ、大事にしているのが「データを活用し根拠を示すこと」。統計学の授業も受け持つ先生は「データの扱い方を身につけて、自分の考えを上手に伝えるツールにしてほしい」と話します。

の研究職に就きましたが、クレームになりやすい天然素材の木材は避けられる傾向にありました。やっぱり木材に関わりたいという想いから国産材を使った木造住宅設計に興味を持ち、ほぼ独学で二級建築士を取得し、設計事務所へ飛び込みました。」

その後、木造住宅の調査研究・試験などを行う財団法人に転職した大澤先生。国の事業にも携わる仕事にやりがいを感じ、一級建築士にも合格するなど充実した日々を送る一方、より主体的に木材の可能性を探る研究への熱意が再燃。15年ぶりに大学院に戻り、仕事を続けながら博士課程を修了。秋田県で研究者としてのキャリアをスタートさせました。



盛岡短期大学部のホームページ⇒

編集後記

何十年に一度と言われた大寒波により1月末には毎日予想以上の寒さが続いた滝沢キャンパスですが、雪を踏んだ時の「サクサクッ」という軽快な音は、いつしか朝の楽しみになっていました。

さて、2023年に開学25周年を迎える大学の広報誌は、今回で84号目となります。これからも大学の活動をお届けしていきますので、次回号もどうぞお楽しみにお待ちください。(坂本)

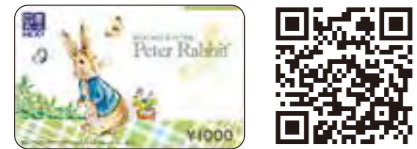
岩手県立大学SNS公式アカウント

岩手県立大学の公式アカウントでは、大学の最新情報を発信しています。Twitter (@Iwate_uPR)、Facebook (@IwatePU) でフォローしてください。YouTube (Iwateprefuniversity) はチャンネル登録をお願いします。



Present!!

岩手県立大学広報誌Archへの御意見・御感想や、広報に関する皆様の御意見を聞かせください。抽選で10名に1,000円分の「図書カードNEXT」をプレゼントします。以下のURLかQRコードにアクセスして、アンケートフォームからご応募ください。



<https://forms.gle/GYf9K12vC37ukQw37>

未来創造基金の報告

大学の教育研究活動をさらに充実させる財源として平成28年度に創設した「岩手県立大学未来創造基金」に、令和4年度は2月末現在で約22件130万円の寄付が寄せられました。寄付をお寄せいただいた皆様に改めて感謝申し上げますとともに、岩手の未来づくりに貢献する教育研究活動をさらに広げていけるよう引き続き御支援をよろしくお願いいたします。

【基金のお問合せ先】岩手県立大学事務局総務室(管財契約グループ) TEL:019-694-2002 FAX:019-694-2001
【お申込方法】本学ウェブサイト、書面、電話、FAX又は本学所定の振込取扱票でお申し込み・お振込みください。



KENDAI NEWS

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。



みよしぜみ「ヒツメビト図鑑」を贈呈

紫波町日詰商店街の活性化等に取り組む有志学生らによって結成された団体「みよしぜみ」は、「ヒツメビト図鑑」を制作し、9月13日に紫波町図書館に贈りました。「ヒツメビト図鑑」は、同商店街の店主の人柄を紹介するパンフレットで、「パンフレットを手にとった人が店主の人柄を感じ取って実際に商店街に来てほしい」という思いを込めて、店主の取材をはじめレイアウトの構成等をメンバーが行い制作しました。



「大きくなあれ」と願いを込めてどんぐりを植樹

川前保育園(滝沢市)の園児の皆さんに御協力をいただき、10月24日にどんぐり拾い・植樹を行いました。この活動は、開学10周年行事として平成19年度に実施して以降、毎年行っており、前年度に拾ったどんぐりを苗にして育て、翌年度に植樹します。園児の皆さんが植樹の方法等のお話を真剣に聞く姿や楽しそうにどんぐりを拾う様子がとても可愛らしく、心が和みました。どんぐりの成長とともに、これからの岩手を担う園児の皆さんの成長を願っています。



大学祭

「鷺風祭2022」を開催

10月29日・30日、3年振りに大学祭「鷺風祭2022」を開催しました。学生にとっては待望のイベントとなり、大学祭恒例の模擬店やステージ発表等、学内は賑やかな雰囲気になりました。夜には大きな花火の打ち上げも行われ、皆さんの喜ぶ顔とともに無事2日間の大学祭が終了しました。2日間で多くの方にご来場いただき、ありがとうございました。



県大Voters 総務大臣表彰の受賞者に!

学生サークル「県大Voters」が、第26回参議院議員通常選挙における総務大臣表彰の受賞者に決定しました。当サークルは、上記選挙に際して、学生向けの投票の呼びかけ、選挙公報を読む会の開催、学内への不在者投票支援ブースの設置等、様々な選挙啓発活動を行ったことが評価されました。2月27日には、県選挙管理委員会主催の伝達式が行われ、表彰状が授与されました。県大Votersの活動につきましては、広報誌「Arch83号」でも詳しく取り上げておりますので、ぜひご覧ください。



令和4年度学長奨励賞授与式を実施

令和5年2月16日、令和4年度学長奨励賞授与式を実施しました。研究活動、課外活動、社会活動の分野で活躍された団体・学生に学長奨励賞が授与されました。受賞された皆様、おめでとうございます!



【学長特別賞】岩手県立大学明るい選挙推進サポーター 県大Voters

独自の企画を多数立案実施し、大学生の政治への理解・関心を深め、政治参加促進に大きく貢献しました。また、第26回参議院議員通常選挙に係る総務大臣表彰を受賞するとともに、第17回マニフェスト大賞エリア選抜として認定されました。

【学長奨励賞】ソフトウェア情報学部 松田 莉音

日本数学教育学会第55回秋季大会に投稿した論文が、学部生として唯一最も優秀な区分に選定されました。

ソフトウェア情報学研究所

浅野 晴暉

情報処理学会第84回全国大会において、大会奨励賞及び学生奨励賞を受賞しました。また、第21回情報科学技術フォーラム(FIT2022)において、FIT奨励賞を受賞しました。

ソフトウェア情報学研究所

及川 遼

「深層学習を利用した冠動脈疾患の診断支援システムの開発」について、ジャーナル論文1件、国際会議2件、その他研究会や全国大会で2件の発表を行いました。

ソフトウェア情報学研究所

千田 小百合

ラーニングイノベーショングランプリ2022において奨励賞を受賞しました。

総合政策学部 市島宗典研究室4年

遠藤 淳史/三河 穂乃佳/山田 玲花/山本 一輝

精度の高い調査・研究成果をまとめ政策提案を行い、その内容が第26回参議院議員通常選挙において採用され、地域の選挙の課題解決に寄与しました。

岩手県立大学大学祭実行委員会

3年ぶりの鷺風祭について、新型コロナウイルスの影響による制約もある中、知恵を出し合いながら企画立案や関係各所との調整等を計画的かつ臨機応変に進め、安全で魅力的な大学祭を実現させました。

岩手県立大学は、2023年に開学25周年を迎えます!

皆様からのあたたかい御支援により1998年に設立された岩手県立大学は、2023年に開学25周年を迎えます。これからも皆様と一緒に歩んでいきますので、今後とも皆様方のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昭和 26年 4月 盛岡短期大学開学
平成 2年 4月 宮古短期大学開学
平成 10年 4月 【四大】岩手県立大学開学(看護学部、社会福祉学部、ソフトウェア情報学部、総合政策学部)
【盛短】岩手県立大学盛岡短期大学部に改称(滝沢キャンパスに移転) 【宮短】岩手県立大学宮古短期大学部に改称
平成 12年 4月 岩手県立大学大学院開設 ・ソフトウェア情報学研究所博士前期/後期課程・総合政策研究科博士前期課程
平成 14年 4月 岩手県立大学大学院開設 ・看護学研究科博士前期課程・社会福祉学研究科博士前期課程・総合政策研究科博士
平成 16年 4月 前後期課程 岩手県立大学大学院開設 ・看護学研究科博士後期課程・社会福祉学研究科博士後期課程
平成 17年 4月 公立大学法人岩手県立大学設立
令和 5年 6月 19日 開学 25周年記念日

大学の歩み

